

### 1. 教育の責任

経営学部所属の専任教員として活動しており、キャリアデザインⅠ・Ⅱ、経営学の扉、実践演習（マーケティングⅠ）、社会におけるデータ・AI 利活用、コンピュータ技術、ビジネス情報処理Ⅰを担当している。このほかに総合科目の AI・データサイエンスの扉、教養としての AI・データ活用、教養としての AI・データ活用（実践演習）を担当している。

### 2. 教育の理念

担当学生には、「最新の情報技術を習得し、卒業時には情報技術を活用して、何らかの形あるものを作り上げる能力を得る」ことを目標に教育している。とくに学習の初期段階においては、基礎的な情報技術を修得できるよう、また苦手意識を持たないように具体的な事例を紹介しながら有用性を解説するとともに、演習の要素も交えるようにしている。基礎技術習得後は、後の履修科目で応用力と実務に資する能力の習得を目標としている。

### 3. 教育の方法

講義科目においては、市販の教科書を用いる場合でも、独自に作成した教材も配布し、並行して提示して授業を進行している。さらに授業資料の電子ファイルの内容をスクリーンに提示し、タブレットで電子的に書き込む方式も取り入れており、授業後にすべてを公開して閲覧できるようにしている。これにより、授業中に板書が完了しなかった学生や欠席した学生がいても各自で復習が可能になっている。また、授業では単調な講義にならぬようディスカッションや演習を適宜取り入れ、動画による事例紹介なども使用し、担当科目の各単元への興味関心を促し、理解の向上を図るよう努めている。

演習科目においては、学生によってスキル修得にかかる時間が大きく異なるため、授業中は巡視し、理解が不十分であったり、進捗が遅い学生のフォローを行っている。あらかじめ解説動画を作成し、それを視聴してから課題に取り組むようにしており、理解度向上に努めている。課題の解決に時間を要している学生に対しては、授業外時間で Teams による指導なども取り入れ、理解度が向上するように努めている。

### 4. 教育の成果

コンピュータ技術は情報処理技術者試験（IT パスポート）の取得対策として位置づけられている科目であり、教科書と独自に作成した教材および動画の並行利用によって理解しやすい授業構成を心がけた。合格者も出ている。また、実践演習（マーケティングⅠ）ならびに社会におけるデータ・AI 利活用では、企業との産学連携授業を実施し、PBL 形式で学生が課題解決を行うための授業を行った。その結果、授業アンケートでは比較的高い評価を得ることができた。

### 5. 改善への努力と今後の目標

授業期間中に体調不良で欠席する学生がいたため、その学生には授業資料を別途配布し、解説するなどサポートを行いながら教育に取り組んだ。動画を作成している授業に関しては、説明が不十分な箇所も見られたため、修正を繰り返し、クオリティの高い授業となるよう改善する。

上述の点を継続的に行うことにより、授業評価のさらなる向上と、IT パスポート試験の合格者数向上に取り組む。

### 【添付資料】

[大手前大学「一人ひとりを手塩にかける経営学部 誕生」2023年4月開設 Youtube](#)

[本気の産学連携 PBL 実践演習（マーケティングⅠ） Youtube](#)

[人の感覚をデータで読み解く先に広がる新たな未来（大手前大学 研究クローズアップ）](#)